	2　投資額の算定 次の算定式により局ごとメタル回線収容装置投資額を求め、全ての局について当該投資額を合算したものに、メタル回線収容装置ソフトウェア投資額（(3)に係るものを除く。）を加え、メタル回線収容装置投資額を算定する。 (1)　メタル回線収容装置（回線収容部）投資額 ＝アナログ電話用ボード数×アナログ電話用ボード単価 ＋第一種総合デジタル通信サービス用ボード数×第一種総合デジタル通信サービス用ボード単価 ＋第二種総合デジタル通信サービス用ボード数×第二種総合デジタル通信サービス用ボード単価 (2)　メタル回線収容装置（ユニット部）投資額 ＝メタル回線収容装置ユニット数×メタル回線収容装置ユニット単価 (3)　メタル回線収容装置（ユニット部ソフトウェア）投資額 ＝（メタル回線収容装置ユニット数×メタル回線収容装置ソフトウェア単価） ×メタル回線収容装置（ユニット部）投資額 ÷（メタル回線収容装置（回線収容部）投資額＋メタル回線収容装置（ユニット部）投資額） (4)　局ごとメタル回線収容装置投資額 ＝メタル回線収容装置（ユニット部）投資額＋メタル回線収容装置（ユニット部ソフトウェア）投資額
メタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ	1　設備量の算定 (1)　収容局ごとに、次のア及びイにより求めたユニット数のうちいずれか大きいものを当該局のメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷユニット数とする。 ア　メタル回線収容装置100Mインタフェース数をメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷポート収容率で除したものをメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ100Mインタフェース数とし、これをメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ１ユニット当たり最大インタフェース数からメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ１ユニット当たり音声収容ルータ接続数を減じたもので除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。） イ　アナログ電話及び総合デジタル通信サービスの最繁時呼量に１接続１秒当たり音声パケット数を乗じ、メタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ収容率及びメタル回線収容装置用Ｌ２ＳＷ最大処理最繁時パケット数で除したもの（１に満たない端数は、切り上げるものとする。）